

目的 集合住宅居住者の住生活と住要求のかかわりあいのパターンを明らかにすることである。居住者の生活を構成すると、その諸要素を①家族：世帯主の年齢・職業および主婦の年齢・職業、家族構成 家族相互間の関係 ②住空間：各部屋の使い分け ③生活手段：家具・耐久消費財の所有状況 ④家計：年収 生活費を支出する際の意識および生活意識 ⑤生活時間：夫婦の平日・休日の自由時間の使い分け ⑥労働：家事労働の内容と時間一とをえ それに基づいて集合住宅居住者の実態調査を試みた。

方法 東京都における分譲マンションを対象としたアンケート調査である。対象住戸210戸 回収住戸108戸 調査時期は1979年8月である。

結果 ①家族：世帯主の年齢は30才後半の会社員と公務員で、主婦の年齢は30才前半、子供2人の核家族である。家族関係は親子本位型 ②住空間：リビングの鏡間は夫婦室、予備室又は客室のような融通性のある室として、玄関に最も近い洋室は子供室、主人書斎室のようなプライベートのある室として、もう一室は以上の2室の緩衝的な室で子供室・夫婦室として使われているが階行為の特色がみられない。③生活手段：各戸のDLに衣箱セット、食卓セット、食器収納家具、テレビステレオが一個以上。各室には和ダンス以外の衣類収納家具、本棚、腰掛机が持ちこまれている。④家計：年収は300-400万円、「切りつめる費目」として光熱費、「切りつめられない費目」として教育費、娯楽費、生活意識は「子供の教育」「食生活」の順で充実させていく傾向。⑤生活時間：平日夫は休養型、主婦は長年の年齢により家事労働型が主で管見型、余暇活動型、休日は休養型が主で家庭型 ⑥労働：育児型の子供は10時間以上で分散的、自己充実型は5-8時間で分散短縮的である。